

全酪連会報 10

2020 OCT No.661

若手後継者の本音／木曾勝己さん

日本酪農見て歩紀／
有限会社日本酪農清水町協同農場
(北海道上川郡十勝清水町)

酪農トピックス／栃木県酪農業協同組合黒磯青年部
「那須塩原市牛乳の日」PR!(東京)ほか



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

(1) 現況

① 就農までの経緯・就農の決め手になったこと

元々は祖父が個人で乳牛を飼育していたことが始まりです。小さな頃からその光景を見ていましたので、「牛飼い」という仕事に自然と興味を持ちました。夜間高校に通いながら牛飼いを手伝っていました。卒業間際に父が共同で法人化したことがきっかけで本格的に就農しました。規模が大きくなるにつれて頭数も増え、預かる田んぼも増え、トラクターなど重機に乗



今回は、兵庫県南あわじ市グリーンファームの後継者 木曾 勝己さんにお話を伺いました。

るようになり楽しくなっていました。

② 今感じている酪農の魅力は何ですか

『酪農の仕事は毎日同じ事を毎日同じようにすることです。』とは言いながら、同じ事をしているようでも日々変化はしていて、楽しいこともあれば辛いこともあります。『トラブルなど、全酪連はもちろん南淡路農業改良普及センターにも協力を仰ぎ、1つ1つ解決していくことが自らの経験値になっていく。やりがいがあります。』と話されていました。

③ 現在の仕事の内容・その中で今一番頑張っていること

一番頑張っていることは『繁殖』です。平成17年に人工授精師の資格を取り、授精業務を自らするようになりました。それまでは獣医に頼んでいましたが自分からするようになったことでより牛を観察するようになりました。『分娩しないと乳は増えない。』受胎率を上げるために、同世代の酪農家や関係機関との情報交換、凍結精液だけでなく生の受精卵の移植（気に入った後継牛を残すため島外で採卵し牧場内で移植）、また、早期種付けに向けて淡路農業技術センターと協力して日々繁殖管理の向上に努めています。

④ 周囲の酪農家（親世代・同世代）とのつながり、一緒にやっていること

市場相場や種付精液についてなどよく情報



(2) 将来

① 将来やろうとしていること、目標

『今の牛舎は少し過密なんだよね。』、受胎率、分娩率の向上から徐々に頭数も増え、春先には乾乳牛も増え、事故もおきかねない状況にあります。『現在牛舎の規模拡大を考えてい

交換をしています。また、自給粗飼料の草地や田んぼに入ってくる有害獣対策として平成17年に狩猟免許を取得し、近隣農家と捕獲をしています。

若手後継者の 本音

Vol.46



チヨット過密かな



グリーンファームの家族と従業員



頼もしい次世代後継者

〔経営概況〕

所 属 兵庫県酪農業協同組合(吉川稔英代表理事組合長)
家族構成 父・耕造さん、母・弘美さん、本人・勝己さん、奥さん・小緒里さん、
長男千歳君、次男瑞己君、従業員4名
飼養頭数 経産牛95頭、育成牛55頭

毎日同じ事を、 毎日同じように

て、搾乳頭数を増やしたいと思っています。自給粗飼料をメインにTMRを作っていますが、TMRミキサーも来年新しく入ってくる予定です。また、既存の換気扇に加えサイクロンの設置も検討しています。

今後は牛の改良にもっと力を入れていきたいです。関係機関にはいろいろアドバイスをもらい進めていきたいです。』と話されていました。『あと次世代の働き手を確保していきたい。』。基本は誰でもできる仕事と考えている一方、その局面に対し柔軟な考え方ができる人材を育てていかなければと思うているそうです。

②お父さんからの一言(アドバイス)

『いろいろな面でロス、ムダを少なく効率よく。』、牛舎という現場において、日頃の作業、

動き1つ1つをとってもロスやムダになることは多い。残滓問題はどの牧場でもあります。牛の状況、繁殖状況など「牛飼いな」として経験を積んでほしいとおっしゃっていました。

(3) 全国の若手後継者・後継予定者へのメッセージ

だんだんとデジタル化され、今までの紙媒体での牛群管理や個人申告だけでは頭数的に限界があるように思います。携帯アプリを使ったシステム、分娩カメラなど日々新しいシステムが出てくるなか、システムの導入を検討し少しでも働きやすい環境にしていきたいと思っています。自分にも子供がいて、『将来は牛の仕事をする!』と、かつての自分のように興味を持ってきています。今までの良さを残しつつ「牛飼いな」を続けていきたいと思っています。

全国の若手後継者の皆さんへ一言!

繁殖をいっしょに
頑張っていきましょう!



日本酪農 見えて来 紀

No. 328

有限会社
日本酪農清水町協同農場
北海道上川郡十勝清水町

徹底的な疾病予防で 治療牛を出さない



北海道上川郡十勝清水町



▲ 井上哲之介代表

この度訪問させていただいたのは、十勝平野の西部に位置する上川郡十勝清水町にあります有限会社日本酪農清水町協同農場（以下、日酪農場）です。所属する十勝清水町農業協同組合（氷見隆雄代表理事組合長）は令和元年度末時点の生乳出荷戸数104戸、年間出荷乳量144,065tとなっています。

牧場の概要

この度お話しを伺ったのは、代表取締役の井上哲之介さんです。日酪農場は、昭和42年に井上代表の先々代が離農跡地をおよそ200ha購入し、6戸の農家の出資により法人化したのが始まりです。3代目となる井上代表は、当初牧場を継ぐ気はなく就職しましたが、オーストラリア人の奥様と結婚後、奥様のご実家で牛を飼っていたことから、思いがけずヨーロッパで酪農に触れ

ることとなりました。それがきっかけとなり酪農に面白みを感じ、平成21年に先代より農場を受け継ぎました。現在は経産牛530頭、育成牛300頭をアルバイト、技能実習生を含めた従業員20名とともに管理しています。牛舎は400床のフリーストール牛舎、パーラーは16頭ダブルのヘリンボーン式となっており、年間出荷乳量は5,554t（令和元年度）となっています。

治療牛床は8床のみ

日酪農場の特筆すべき特徴は圧倒的な治療牛の少なさです。搾乳牛430頭、総頭数830頭を飼養する農場に、治療牛床はなんと8床しかありません。夏場など牛の体調に影響を及ぼす時期でも常時治療牛を8頭以下に抑えるために、疾病、事故の徹底的な予防と、早期発見にこだわっています。



▲ きれいに清掃され、古紙がたっぷり敷かれた牛床

① 乳房炎の予防と適切な治療

乳房炎予防の最大のポイントは乳房を清潔に保つことです。日酪農場にはアルバイトも含めて従業員が20名いますが、4名が牛床掃除の担当です。搾乳時間に400床のベッドをスノープッシャーで徹底的に掃除し、裁断古紙を敷き朝晩消石灰をまきます。機械で掃除したこともありますが、納得のいく掃除ができなかったとのこと。「ベッド掃除にこれだけの人件費をかけている牧場はないでしょ」と笑っていらつしやいましたが、ベッドの衛生状態により乳房炎罹患率はぐっと抑えられるそうです。また、ワクチンも積極的に取り入れ、分娩牛には年に3回接種しています。現在使用しているワク

チンは、予防だけでなく発症時の死亡率減少など特に効果を実感されているとのことでした。しかし、それでも夏場や湿気が高い時期になると乳房炎は発生してしまうので、次に徹底しているのが早期発見です。乳量の減少、発熱の症状が見られたらすぐに乳房炎を疑います。疑いのある牛には生食による乳房内洗浄、ビタミン・ブドウ糖の注射と言った初期治療を行うと同時に農場内で菌を培養して原因菌を特定します。5〜6時間後には結果が分かるため、すぐに最適な抗生物質を投与することができ、過剰な薬剤投与により牛に負荷をかけることもなくなります。今年は北海道でも蒸し暑い日が続きましたが、乳房炎による死亡数はゼロとなっており、これらの管理の成果が出ていました。

② 分娩によるダメージの緩和

乳房炎と並んで治療牛を出しやすいのが分娩です。乾乳後期は牛舎に余裕を持たせ、牛にストレスを与えないよう気を配ります。分娩後はビタミン、ブドウ糖、カルシウムを投与しますが、特に最初の3日間は集中的に、牛によっては朝晩2回カルシウムを投与するなど、分娩前後の

ケアを徹底しています。一時的に薬代や手間はかかりますが、起立不能など大きな事故が予防でき、そのうえ搾乳がはじまってからも状態が良くなるため、結果的に乳量も安定し儲かるのだと言います。



▲ 16頭ダブルのパーラー設備
牛舎とパーラーには、クラシック音楽が流れていた

③ 正確な飼料給与

搾乳牛は分娩後の日数により4郡管理となっており、ステージに応じた飼料設計を行います。飼料設計にあたっては「粗飼料をいかに食べさせるか」を意識して、圃場により成分に差が出ないよう、サイレージの乾物率を頻繁に測定しているそうです。また、残飼量から正確な食い込み量を把握してTMR調整に活かすなど、設計に忠実な粗飼料給与に

よって健康状態を維持しています。飼料畑はおよそ200haで、85haがデントコーン、残りが牧草です。炭酸カルシウム・スラリーの散布、5年毎の更新に加えて、伸びが悪い畑にはイタリアンを追播し安定した収量を確保しています。以前はデントコーンを多く作付けしていましたが、近年北海道にも大型台風が接近するなど気候が不安定になっており、当農場でも2年連続で倒伏があり非常に大変な思いをされたそうです。その経験から、倒伏のリスクを考えて現在の比率となっています。



▲ 育成牛舎と前方に見えるのがスタックサイロ
農場は広く、頻繁な行き来は大変に感じた

④ 蹄のケア

足が悪い牛は必ず乳量が減少するので、削蹄は年2回を基本に、少しでも歩行や動作に問題がある場合は

こまめに行い、蹄の健康に気を付けています。日酪農場では従業員が削蹄も行えるため、毎日2〜3頭ずつ行っています。

どの作業も初期判断を間違えば最終的には作業が増えることにつながります。一度起立不能など重症になれば回復に時間もかかりますし、人にも経営にも負担になります。そのため、何よりも予防と早期発見が大事だと井上代表は考えています。「治療牛床8床と言うのは」大きなプレッシャーです。本音を言えば増やしたいけど、牛舎がもういっぱいだから」と言われていましたが、徹底した予防により適応されていました。



▲取材当日も、削蹄が行われていた従業員の松浦真利江さん(左)、と山川獣医師(ゆうべつ牛群管理サービス)(右)

愛をもって牛に接する

井上代表が就農された当初は、牛の疾病、死亡が多く経営状況もあまり良くありませんでした。井上代表はすぐに「どこに問題があるのだろう、代表だからと言って事務所にいっては何も分からない!」と率先して現場に入り、まずは子牛、次に乾乳、そして搾乳、育成牛とさまざまな管理方法を試し、そして最善だと感じたものをマニュアル化しました。その根幹にあるのが、「愛をもって牛に接する」ことです。特に搾乳牛については穏やかでいることでオキシトシンが分泌し、乳量も増加します。そのため牛に負担をかけない、大声をあげない、優しく追うことが大切だと言います。牛への接し方、扱い方は従業員の教育においても徹底しているそうで、牛舎に知らない人間が入っても逃げ出す牛はほとんどいませんでした。大型経営で、こまめで1頭1頭に気を配って管理しているところに驚かされました。

SIRIと話すような酪農

繁殖は奥様が担当され、発情は万歩計と目視で判断しています。牛群

管理システムによりホルモン剤投与も行っており、授精師が従業員として常に牧場にいるため繁殖成績も良好です。また、ホルスタインがメインですが、受胎しづらい牛にはF1を授精して受胎率を安定させるように努めています。そして前述のケアにより死亡する牛はほとんどないため、牛舎はほぼ満度まで来ています。この頭数を引き続き限られた人数で疾病を少なく管理していくために、クラウド化によるタブレット管理を取り入れることを考えています。牛舎間を移動しなくても牛の状態が分かる、大人数で即情報を共有できることは大きな魅力だと言えます。そして将来的には、搾乳ロボットを導入し、搾乳作業の省力化を考えています。さらに、「酪農を取り巻くシステムにも音声認識機能を追加してほしい。そのうち、SIRIと話すように音声で牛の管理ができればいいね」と希望を語ってくださいました。

従業員教育も疾病予防と同じ

取材中、「牛のケアを怠ったり、病気の初期段階を見逃した従業員には本当に厳しく怒りますよ」と言わ



れていました。経営者として厳しい面はもちろんありますが、普段は何か問題があれば、ミーティングや責任者経由ではなく代表が1対1で話を聞くようにしているそうです。代表自ら個人に接して、牛の疾病と同じく小さな問題が大きくならないように解決することが、同じ目標に向かって取り組むために大切なことなのだと教えてくださいました。場内でお会いした従業員の方は皆さん挨拶してください、代表や従業員間の信頼関係が伺えました。

これからも日酪農場の皆様がご健康で、ますますご発展されることを願っております。この度は、大変お忙しいところ取材にに応じていただき誠にありがとうございました。

東京
支所発栃木県酪農業協同組合黒磯青年部
「那須塩原市牛乳の日」PR!

9月2日(水)の「那須塩原市牛乳の日」に合わせて、栃木県酪農業協同組合（石川正美代表理事組合長）の黒磯青年部（蓮實伸也部長）は、那須塩原市、那須野農業協同組合、花咲くとちぎ推進協議会などの行政、関係団体と一緒に、感染対策に十分に配慮しながら、那須塩原市の社会福祉施設や公立保育施設など全 80 箇所をまわり、1ℓ牛乳パック 596 本、200ml 牛乳パック 2,795 本を無償提供し、栃木県酪農業協同組合の自社ブランド『とちらく牛乳』のPRを行いました。

また、牛乳の消費だけでなく、地域に根差した一次産業の発展のために、行政やJAなどの花卉生産の関係団体「花咲くとちぎ推進協議会」とコラボし、コロナ禍で停滞の続く、花卉の消費拡大にも協力しました。

コロナ禍の中で、地域の皆さんに、生乳生産量本州1位を誇る安心安全な地元の牛乳を飲んでいただき、

健康で且つ元気になってもらおうと、栃酪黒磯青年部が企画・立案し、活動費を捻出しました。企画段階では、春先の学校が休校で生乳余剰になったものの、夏場を迎え生乳生産が減少する時期に、子供たちの学校の夏休みが短縮し、生乳不足が懸念される雰囲気だったことから、青年部活動費を捻出しての無償提供や消費拡大キャンペーンを積極的に行うことへの反対意見もあったそうです。それでも地元で生産された1本の牛乳が、地域の方々に元気にする酪農の魅力を発信するには、十分なものでした。施設 80 箇所の中には、牛乳パックを再利用して封筒やコースターを作成している酪農と関係している事業所を訪問したり、福祉施設の入居者の皆さんと触れ合う場を提供して頂いたり、酪農、また一次産業を通じて、地域のつながりと果たす役割を黒磯青年部の皆さんが感じたPRとなりました。（T.K）



東京
支所発

「自走式コーンハーベスター」導入される

9月13日(日)に長野県伊那市の『ますみヶ丘フォルト組合(桃澤圭組合長)』が導入した自走式コーンハーベスターの入魂式が行われました。

ますみヶ丘フォルト組合は伊那酪農業協同組合(小松平一代表理事組合長)の組合員が設立した農家コントラクターで、現在は4戸の酪農家で構成されています。



▲ 桃澤圭

ますみヶ丘フォルト組合長

入魂式では神事ののち、桃澤圭組合長から『新しい機械の導入で収穫能力と効率が大幅に上がったことからよりよい収穫物の確保は勿論、遊休農地の活用も図っていきたい』と、挨拶がありました。来賓の宮下一郎衆議院議員、白鳥孝伊那市長の祝辞挨拶を経て、ますみヶ丘フォルト組合の概要説明と導入したコーンハーベスターの紹介が行われました。今回お披露目された自走式コーンハーベスターは、平成30年度の畜産・酪農収益力強化・整備等特別対策事業を活用して

導入したドイツ CLAAS 社のジャガー 860 型です。平成29年は農地40ヘクタール分のトウモロコシの収穫を行いました。今回のコーンハーベスター導入により4戸で52ヘクタール以上の収穫と、近隣酪農家からの要請に応じて収穫作業を代行する計画です。これまで使用していたコーンハーベスターより約1.5倍の収穫作業能力があり、マルチコーンクラッカー機能により収穫物の切断長をより細かく調整できるようになったことから、収穫飼料の栄養吸収が促進されることにも期待されています。

その後、トウモロコシ収穫からラップ貯蔵までの作業を見学。今年の伊那市は、7月は長雨続きの上に気温が上がらず、8月は降雨がなく猛暑の気象で自給飼料の生育が危ぶまれましたが、すすく伸びたトウモロコシを豪快に刈り取る風景は圧巻。見学した方々からは、『アニメでみた戦闘ロボットのような…』の感想も。

入魂式のあとは、これからの収穫作業に向けて焼肉を食べながら英気を養いました。(N.T)



▲ 収穫作業の披露



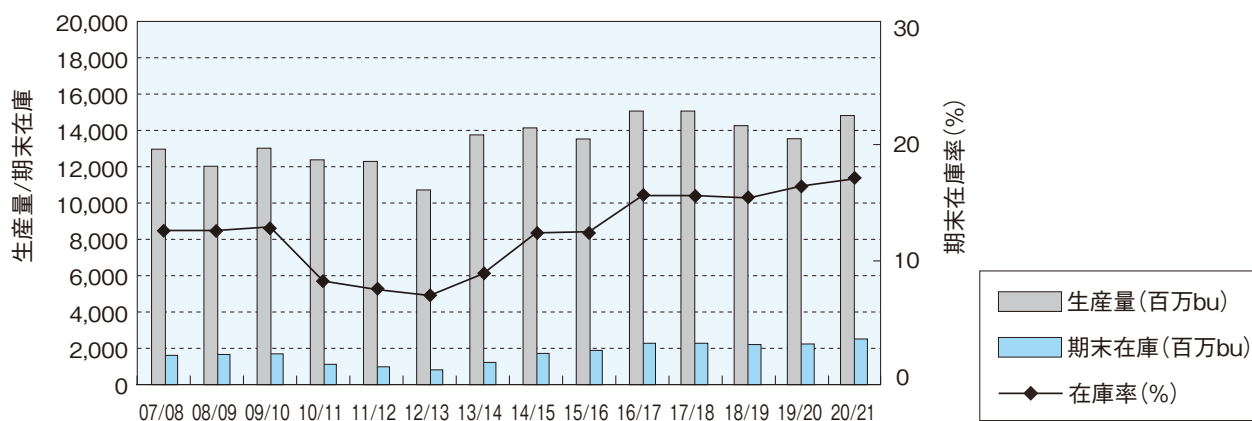


原料情勢

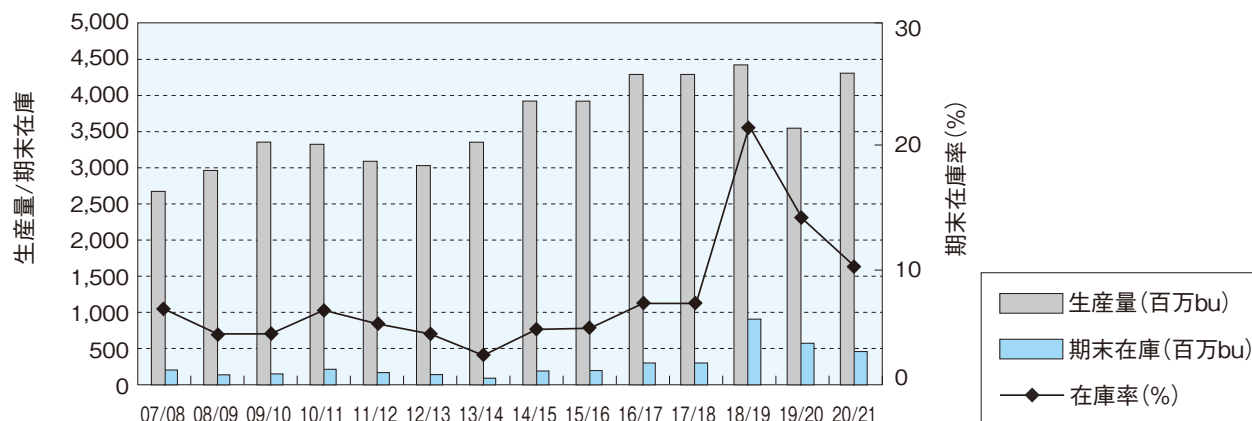
令和2年9月

		19/20年産	20/21年産
9月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	89.7	92.0
	単 収(ブッシェル/エーカー)	167.4	178.5
	生 産 量(ブッシェル)	136億1,700万	149億0,000万
	需 要 量(ブッシェル)	136億3,000万	146億7,500万
	期末在庫(ブッシェル)	22億5,300万	25億300万
	在 庫 率	16.5%	17.1%
トウモロコシ 相場動向	中国の輸出成約報告が連日続き、相場は堅調に推移している。9月頭の時点で350¢台であったシカゴ相場が370¢台を更新している。収穫期を迎えた米中西部では今後9月末まで好天に恵まれるとの予測であり、例年収穫時期は下落に転じることもあることから、シカゴ相場は軟調に推移する見通し。しかし、中国による米国産トウモロコシの買い付けは未だ続いているため、堅調に推移する可能性も視野に入れて注意していきたい。		
大豆粕相場動向	シカゴ相場は大豆の中国向け大口輸出成約を背景に急騰している。中国産は国内飼料需要が旺盛で、北、南米産も価格競争力が低下しており高値となっている。国産は輸入原料大豆の高騰と外食需要の減少を背景に高値となっている。		
糖 類	【一般フスマ】 発生が引き続き低調で在庫も少なく推移しており、年末に向け需給は非常に逼迫する見通しで相場は強含みとなっている。		
	【グルテンフィード】 国産は異性加糖販売は依然低調で、スターチメーカーは12月の早期に定修に入ると見られており、年末は非常に逼迫する見込みである。中国産は国内飼料需要が旺盛なことや原料となるトウモロコシ相場が高騰しており価格競争力は無い状況となっている。		
海上運賃	海上運賃はフレートは9月に入り、原油下落によりやや軟調に推移している。米国におけるドライブシーズンが終了した中、ガソリン需要が伸び悩んだことから、期先の需要に対する不安視が広がり、原油下落に繋がっている。しかし、引き続き中国の鉄鉱石需要は継続する事が想定され、また、コーンの大量買い付けも依然として続いていることから、急な反発に注意したい。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



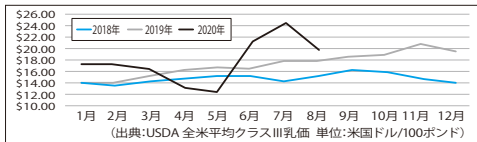
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和2年9月

北米コンテナ船情勢	中国をはじめとしたアジア諸国からの輸出量は回復傾向にあります。COVID-19を起因とした貨物の落ち込みから、各船社はこれまで本船を減便し船腹を調整していましたが、輸出量が急速に回復していることから、中国を中心とするアジア地域において輸出用の空コンテナ及び船腹が不足しています。この影響でアジア発米国向けの航路の運賃は上昇しており、歴史的な高値となっています。一方で米国発日本向け航路は春先の混乱からひと段落しており、PSW、PNWともに落ち着きを取り戻しつつあります。
米乳価状況	9月2日にUSDA（米国農務省）が発表した8月の全米平均クラスⅢ乳価は、乳製品100ポンドあたり\$19.77と前月比\$4.77下落しています。米国における夏場のCOVID-19感染者増加で外食産業向けの乳製品需要が減少し、この数か月非常に不安定な乳価となっています。  1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 (出典:USDA 全米平均クラスⅢ乳価 単位:米ドル/100ポンド)
ビートパルプ	【米国産】 産地では順調に20年産ビートの収穫が開始されています。地域差はありますが、主産地の中西部では8月上旬から順次収穫が開始されており、単収は平年並みになることが見込まれています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地コロンビアベースンでは3番刈の終盤を迎えており、南部では4番刈の収穫が始まっています。3番刈は収穫時天候がよかったため雨当たり被害はほとんどなく、色目の良いアルファルファが発生しています。一方、産地では暑い日が続いたため、成分と葉付きは様々で上級品から下級品まで幅広く発生しています。高成分な上級品の供給は限られているため、輸出向け及び内需から強い引き合いがあり相場は堅調に推移しています。 【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズでは2番刈の収穫作業は終了し、3番刈の収穫作業が開始しています。2番刈は一部雨当たり被害が発生したものの、全般的に作柄は良好で多くの良品が発生しています。オレゴン州中部クリスマスバレーでは2番刈の収穫作業が終了しています。2番刈はクラマスフォールズ同様、一部の圃場で降雨被害を受けたものの、概ね例年並みの仕上がりととなっております。3番刈の収穫作業は9月上旬頃開始される見込みです。  ◀ クラマスフォールズ産2番刈アルファルファ 8月中旬撮影 【ネバダ州・ユタ州】 ネバダ州北部ウィナマッカ地区では2番刈の収穫作業が終了しており、3番刈の収穫が開始しています。ユタ州では、2番刈の収穫は終了し3番刈の収穫が始まっています。2番刈は天候に恵まれたため、降雨被害無く、緑色が鮮やかな、きれいな牧草が収穫されています。 【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは6番刈が本格化しており、生産者によっては7番刈の収穫を開始しています。高温多湿な気候が続いたため茎が固くブリーチが入った低成分のサマーヘイが中心に発生しています。カリフォルニア州北部デイクソン地区では現在4番刈が収穫されています。2番刈までは湿度も少なく、色目の綺麗なアルファルファが収穫されましたが、3番刈以降湿度が高くなっておりブリーチ混じりのアルファルファの発生が多くなっています。
チモシー	【米国産】 主産地であるコロンビアベースン、キティスバレーでは2番刈の収穫が終盤を迎えています。20年産の2番刈りは、収穫期の天候に恵まれ良品が収穫できましたが、1番刈収穫後に、チモシーから他の換金性の高い作物への転作が多くみられ、生産量が減少しています。このため国内需要が強い3タイ原料を中心に現地価格は上昇しております。 【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジでは例年より1週間遅い7月上旬から1番刈の収穫が開始し、現在収穫作業を終えています。収穫期に比較的天候が安定したため20年産は50%以上が中級品以上と言われていますが、全般的に例年よりも多く茶葉が混入しています。非灌漑エリアである同州中部のクレモナでも収穫を終えています。70%で降雨被害を避けることができたため、良品の発生が期待されていましたが、茶葉の混入が多く上級品の発生は限定的となり大半が中級品以下になることが見込まれています。
スーダングラス	主産地であるインペリアルバレーでは2番刈の収穫が終盤を迎えています。産地ではスーダングラスの作付面積が減少したこと、収穫スケジュールが遅れたため上級品の発生量は例年に比べ少なく、特に色が抜けた上級品の発生は限定的です。このため日本の需要を満たすため輸出業者による旺盛な買い付けが行われており、例年では買付を見送られるような品質も色抜け上級品として高値で売買されています。また茎の太い低級品についても国内の肥育農家による旺盛な買い付けが行われており、産地相場は上昇しています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 産地では5番刈の収穫が行われており、スケジュールの早い生産者はすでに6番刈りを開始しています。8月に入り高温多湿な天候が続く、茎の固いブリーチが混じったクレイングラスの発生が多くなっています。産地相場は落ち着いています。
ストロー類	主要産地のウィラメットバレーでは、アニュアル種、ペレニアル種のライグラスストローとフェスクストローの収穫が終了しています。収穫期間中は好天に恵まれ良品が発生しています。産地の多くの輸出業者は19年産からの繰り越し在庫を持ち合わせておらず、工場を稼働させるため、各社収穫されたばかりのストローを旺盛に買い進めており、産地相場は堅調に推移しています。
オーツヘイ／ウィットストロー	【豪州産】 南豪州、東豪州ともに8月は降雨に恵まれ生育は順調です。東豪州の北部で一部、降雨量が少なく低収量が予想される地域もありますが、東豪州、南豪州ともに9月中旬から順次収穫が開始される見込みです。西豪州は地域によって降雨量にバラつきがあり、一部地域では乾燥気味な気候が影響しやや生育が遅れています。西豪州では9月上旬から中旬にかけて順次収穫が開始される見込みです。産地では暖冬傾向で気温も高く適度な降雨があったため放牧草の生育状況はよく、内需からの引き合いは落ち着いている印象です。   ◀ 東豪州 9月中旬頃の収穫が見込まれる圃場 8月下旬撮影   ◀ 西豪州の生育が順調な圃場 丈90cm、出穂率5割～7割程 8月下旬撮影



乳牛産地情報

令和2年10月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	38~45	→	札幌管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で98.1%、累計で102.5%、苫小牧管内月計で100.6%、累計で101.6%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしましては、12月分娩が中心となります。9月の同地域の乳牛市場平均価格は大幅に下がっておりますが、上クラスの牛につきましては横這いで推移しております。10月の初妊牛購買は、残暑の影響が無くなってきますが、資源が増えてきているため、相場は横這いで推移するものと思われます。この地域は高能力牛が出てくる地域ですので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	40~45	→	根釧管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で100.6%、累計で101.2%、中標津管内月計で102.0%、累計で102.4%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月分娩が中心となります。9月の同地域の乳牛市場が横這いで推移したため、庭先購買価格も同様の動きとなるものと思われます。資源状況はF1腹・雌雄選別腹は十分に確保できるものと思われます。和牛受精卵移植腹は府県のギガファームの導入が再開した影響もあり、庭先での確保が難しくなっており、今後の相場は堅調に推移するものと思われます。府県の導入頭数次第で、相場が強含みとなることも考えられますので、都度お問合せください。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~47	→	帯広管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.8%、累計で102.9%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月分娩が中心となります。9月管内乳牛市場の初妊牛平均相場は残暑の影響もあり、やや弱含みで推移しました。残暑も落ち着き、府県・道内共に導入意欲は上がるかと考えられますが、市場の上場頭数が多い状況が続いておりますので、相場は横這いと予想されます。初妊牛の資源につきましては、雌雄選別腹の出場頭数が減少しておりますが、頭数は確保できる状況となっておりますので、オーダーがありましたらお早めにご連絡いただきますようお願いいたします。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	38~46	→	道北管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で100.0%、累計で101.3%、北見管内では月計で105.0%、累計で104.1%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月中旬~1月中旬分娩が中心となります。資源頭数については前年並み以上にあると思われ、相場については横這いで推移すると予想されます。雌雄選別腹の出品が減少傾向のため、F1腹との価格差は少ない傾向が続くかと思われます。規模拡大農家の導入動向次第で相場が大きく動く可能性もありますので、相場については都度お問合せいただきますようお願いいたします。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	38~48	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	38~47	→	道内の9月中旬までの生乳生産量前年比は102.4%、累計で102.5%の実績となっております。道内では、一気に秋の気候へ移り変わってきており生乳生産量も順調に伸びています。また、デントコーンの収穫作業が順調に進んでおり、地域差はありますが概ね収穫量・品質とも期待できそうです。12月~1月分娩中心となる10月の初妊牛動向について、都府県の導入意欲は増してくる時期になりますが、それ以上に資源も豊富であることから、相場は安定するものと見込まれ横這いと予想されます。今後、大口導入などによる相場の変動に注視しながら、庭先購買中心に優良な搾乳用素牛を供給して参りますので、購買計画がございましたらお早目に弊会担当者までご連絡いただきますよう宜しくお願いいたします。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	40~50	→	

今月の表紙

今月の表紙は「そうじは、まかせろっ!!」
佐賀県 松本裕子氏
撮影です。



編集後記

●いよいよ秋本番！スーパーや青果店には、さつまいも、栗、ぶどうなど美味しそうな秋の味覚が沢山並んでいます。中でもぶどうは栄養価が高く、ヨーロッパでは「畑のミルク」とも呼ばれているそうです。新型コロナウイルス感染、そしてインフルエンザも流行する時期となってきました。秋の味覚で栄養を十分に摂って、体調管理をお気を付けください。

令和2年10月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 10月号 No.661

●編集・発行人 白鳥建樹

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

初乳粉末製品

GOODSTART PREMIUM

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有

初乳が足りない時、イザという時の備えに、
グッドスタートプレミアムが皆さんのお役に立ちます。

○作業性は「3楽」

～溶かすも楽、給与も楽、片付け作業も楽々～

何かと余裕がなく、慌ただしい子牛の分娩。

溶解性に優れているグッドスタートプレミアムを使えばスムーズです。

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全卵粉末

製品紹介サイトはこちら



牛用配合飼料

SOYCHLOR

ソイクロール

～ソイクロールで移行期を乗り切ろう～

ソイクロールの特長

エネルギーコントロールのしやすさ

乾乳期の過剰なエネルギー給与は、様々な周産期疾病の一因とされます。ソイクロールは、クローズアップ期の代謝タンパクを充足させながらエネルギーのコントロールがしやすい飼料です。

分娩後の代謝を考えたミネラルバランス (DCAD)

ソイクロールはDCADを適正化させる塩素を強化しつつ、不足しがちなマグネシウムとカルシウムも配合しました。乾乳期のDCADを整えることによって、分娩後の良いスタートを切りましょう。

給与量

●給与推奨量 クローズアップ期にて1頭当たり600g～1kg/日

※詳しくは弊会スタッフまで。

お問い合わせ先



全国酪農業協同組合連合会

札幌支所 011(241)0765
釧路事務所 0154(52)1232
帯広事務所 0155(37)6051
道北事務所 01654(2)2368
根室駐在員事務所 01537(6)1877

仙台支所 022(221)5381
北東北事務所 019(688)7143
東京支所 03(5931)8011
北関東事務所 027(310)7676
栃木駐在員事務所 028(689)2871

名古屋支所 052(209)5611
大阪支所 06(6305)4196
中四国事務所 0868(54)7469
近畿事務所 0794(62)5441
三次事務所 0824(68)2133

福岡支所 092(431)8111
南九州事務所 0986(62)0006

